

就労訓練事業の受け入れ体制モデル事業所 取組事例紹介

事業所の概要

- 事業所名 社会福祉法人翔の会 水平線（茅ヶ崎市芹沢）
- 事業概要 身体障がい者を対象とした施設入所、支援、生活介護、短期入所等

対象者の情報

- 50代男性 ●20年程度のひきこもり歴 ●他者とのコミュニケーションに不安を感じる
- ドライバーとして業務経験がある

訓練事業の概要

- 内容 社会福祉法人翔の会が運営する水平線以外の事業所（デイサービス、生活介護事業等）4カ所の利用者及び職員の弁当を配達する業務。
対象者の状況と希望を確認しながら、概ね以下の3段階に分けて訓練の難易度を高めていった。
① 職員が運転する車両に対象者が同乗→② 対象者が運転する車両に職員が同乗→③ 対象者1人で配達
- 訓練日程 令和6年7月23日～9月30日、週3～5日、各日10:15～12:15
- 受入体制 施設長1名、主要職員3名、職員2名
業務指導は施設長及び主要職員が担当し、各日1名以上は配達に同行

就労訓練実施にあたっての工夫 等

●業務の切り出し

対象者が他者とのコミュニケーションに不安を感じており、言葉のやり取りが少ない仕事を望む傾向にあり、ドライバー職の経験をお持ちであったことから、法人内から弁当配達を訓練事業として切り出した。

●具体的な内容

対象者の成長に応じて、段階的に難易度を上げていった。

- ①職員が運転する車両の助手席に対象者が同乗し、運転ルートを覚えていただきながら、お弁当の受け渡し等を一緒に行い、業務内容全体の指導を行った。
- ②運転ルートの一部を対象者に担当いただき、運転技術・安全性の確認、運転ルートを覚えているか、配達時間を守れるか等を確認していった。
- ③徐々に対象者が運転するルートの割合を増やしていった。
- ④運転ルートの全てを対象者が担当し、職員が助手席で見守った。
- ⑤就労を見据えた最終段階として、1人で全工程を行えるか確認を行った。

●訓練継続、就労に向けた工夫

段階的に訓練の難易度を上げることで必要な経験を積み上げ、対象者のモチベーション向上を図った。
また、対象者が経済的困窮状態にあり、無償のままでの訓練継続は難しいと考え、訓練の難易度に応じ、「無償→1時間700円→1時間900円」と段階的なインセンティブを設定した。

●自立相談支援機関との連携

対象者は、就労準備支援事業による支援を受けており、自立相談支援機関の相談員・就労支援員が対象者の状況を鑑みて、社会福祉法人翔の会と協議し、次のステップである就労訓練事業に移行した。
対象者に適した訓練内容の検討、訓練実施中の対象者の状況の共有・面談同席等、継続的な連携を行った。

●成果及び今後の支援

就労に必要なレベルに達成したため、訓練として実施していた業務で雇用契約を締結、一般就労に至った。
施設利用者と触れ合う役割にもチャレンジ中。
今後、対象者が自立に至るために必要な収入を得られるよう、他事業所での訓練実施も検討している。

就労訓練事業の受け入れ体制モデル事業所 取組事例紹介

就労訓練事業を活用した感想

『就労訓練事業を活用して良かった』

『スロープを上るように段差を感じずに就労まで辿り着けた』

対象者の声

一番良かったところは、**プレッシャーをあまり感じずにスタートを切れた**ところ。
経験のある訓練内容だったので作業そのものへの不安はあまりなかったものの、苦手意識のあった人間関係に対する不安が大きかったが、訓練では自身のペースに配慮いただきながら取り組ませていただいたことで、**最後まで安心して訓練に臨むことができた**。
加えて、今回の訓練参加を通じて、苦手としていた人間関係を楽しく感じることもできるようになった。今では施設利用者と触れ合う機会もあり、今後も前向きに活躍の場を増やせるよう取り組んでいきたい。

訓練事業所の声

双方が就労に向けた確認期間を持てるため、**採用プロセスでのミスマッチ防止**としても意義を感じる。
受け入れにあたっての業務の切り出しについては、例えば、法人内で手が届ききっていない作業を募り、その作業を訓練に採用することで、自然に職員の感謝が生まれ、訓練に直接的には関わらない職員も当訓練の実施に協力的になり、結果、対象者のモチベーション向上にもつながると考えている。
また、**自立相談支援機関と連携**することで、対象者に適した訓練内容のマッチングをスムーズに行えた。
今回を成功モデルとして、現在、新たに複数の対象者を当法人で受け入れている。

自立相談支援機関の声

就労準備支援事業から就労訓練事業につながり、**無理のないステップを経て就労までつながった**。
当初、就労の希望が明確になったタイミングでハローワークにも行ったがブランクの長さもあり難航、ブランクを埋めることと人間関係に慣れることを主な目的として就労準備支援事業の利用を提案した。
就労準備支援事業の開始後も担当者と連携をとり、今回の就労訓練事業へのチャレンジにつながった。
訓練開始後も継続して対象者・訓練事業所側とコミュニケーションを取りながら見守りを継続し、対象者が就労まで順調にステップアップしていけるよう努めた。

勤務中の様子

宅配車への積込



配達中の運転

